

序章 神道を知る

- 神道とはなにか 自然発生的に誕生した神の道 14
 日本人と八百万の神 森羅万象に見出した、人知を超越した存在 16

章末コラム◆『古事記』を読む①

神々の誕生 18

第一章 神道の歴史と民間信仰

- 神道の誕生 稲作の伝来で広まった作物の豊穰を願う信仰 20
 仏教伝来と神道 仏法に帰依した日本の神々 22
 学派神道の成立 仏教の広まりのなかで進められた神道の体系化 24

- 明治維新と神道 近代国家樹立を目指して行なわれた思想の原点回帰 26
 戦後の日本と神道 「国家神道」からの脱却、民間信仰の高まり 28
 伊勢信仰 「二生に一度は参宮したい」由緒正しき伊勢神宮への思い 30
 稲荷信仰 豊穣と現世利益を求め、各地で祀られる「お稲荷さん」 32
 天神信仰 怨霊への畏怖から始まった学問の神としての崇拜 34
 熊野信仰 現実世界の浄土と捉えられた天下の霊地 36
 七福神信仰 庶民の欲求に応える形で誕生した福をもたらす神々 38

章末コラム◆『古事記』を読む②

天石屋 40

第二章 日常生活に根づいている神道としきたり

- 神棚 家庭内に鎮座する小さな神社 42
 宮参り 氏神への顔見せと赤子の成長を祈る行事 44
 厄払い 本来はハレの年齢だった厄年 46
 祝詞 神へ捧げる繁栄への祈り 48
 地鎮祭と上棟式 いまに受け継がれる、建築工事には欠かせない祭り 50
 神前結婚式 歴史は浅いが、古き良き日本の婚儀を踏襲した式 52

神葬祭	死者の靈魂は祖霊となり、子孫を見守り続けるという思想	54
相撲	もともとは豊作を占うための神事だった日本の国技	56
流鏝馬	武芸から取り入れられた年中行事	58
神楽	能の起源となった神がかりの踊り	60
雅楽	大陸伝来の文化と習合して生まれた世界最古の音楽	62
神道と年中行事	神に豊作を願う農耕儀礼から発展した行事	64
〔1月〕初詣	大吉の方角にある神社をお参りする風習と忌籠り	66
〔1月〕おせち料理	正月に限定された、節目の日の祝い膳	68
〔2月〕節分	邪気や災厄を豆で祓い、立春を迎える	70
〔2月〕祈年祭	農作業の本格化の前に行なわれる豊穰を願う神事	72
〔3月〕雛祭り	邪気を祓う行事から女兒の成長を願う祭りへ	74
〔3月〕彼岸	春の農耕の前に祖霊を祀り、豊作を願う	76
〔4月〕花見	春の農耕開始の目安となる桜の開花で豊凶を占う	78
〔5月〕端午の節供	武家社会に取り入れられた邪気を祓う習俗	80
〔6月〕夏越の祓	病気になるやすい季節を乗り越えようとする人々の切なる願い	82
〔7月〕七夕	お盆を迎えるにあたり、心身を祓い清める	84
〔7月〕夏祭り	疫病退散を願った都市型の祭礼	86
〔8月〕お盆	祖霊を祀る代表的な魂祭	88
〔9月〕月見	月神に供え物を捧げ、農作物の収穫を感謝する	90

〔10月〕神嘗祭	いち早く神に収穫の感謝を捧げる伊勢神宮の重要神事	92
〔11月〕七五三	子どもの成長を願うとともに氏子の仲間入りを認めてもらうハレの日	94
〔11月〕新嘗祭	天皇自らが神に奉告する、国をあげての収穫感謝祭	96
〔11月〜12月〕霜月祭	一年を締めくくる収穫感謝祭	98
〔12月〕煤払い	心身を清め、歳神を迎える	100
〔12月〕門松	歳神が降臨する目印であり、留まる場所	102

章末コラム◆『古事記』を読む③

国譲り

104

第三章 神社の基礎知識

神社とは何か	神を祀る場にはもともと建物はなかった	106
神社の変遷	時代の流れのなかで変化を遂げた祭神	108
神社の格式	神社の名前に見える社格の名残	110
神社の歩き方Ⅱ	神社境内MAP	112
本殿	参拝者は決して立ち入ることができない聖域	114
社殿建築	神社や信仰の違いによって異なる様式美	116
拝殿	神を拝礼するために設けられた御殿	118

撰社と末社 祭神と関わりの深い神とその土地の神 120

鳥居 俗界と神域を隔てる神社の結界 122

燈籠 神の加護を願うための祈りの明かり 124

注連縄 内側が神聖な場所であることを示す縄張り 126

狛犬 邪気を祓い、神社を守る一對の石像 128

眷属 姿を見せない神の代わりに神意を伝える使い 130

手水舎 一般参拝者が行なう簡略化した禊 132

神輿 華麗な装いが施された神の乗り物 134

章末コラム◆『古事記』を読む④

天孫降臨 136

第四章 参拝の基礎知識

参拝の作法 神に対面するために定められた心得 138

賽銭 本来は秋の収穫を神に感謝するためのお供えだった 140

玉串の捧げ方 祈念を込め、神威を受けるために奉納する神 142

おみくじ 今後の行く末を神に仰いだ人々の思い 144

お守り あらゆる災厄から身を守るために着用した神の分霊 146

絵馬 神の降臨を願い、奉納された神馬 148

神酒 神を喜ばせる、神事には欠かせない飲み物 150

章末コラム◆『古事記』を読む⑤

海幸彦と山幸彦 152

第五章 日本の神々

伊弉諾尊と伊弉冉尊 世界と神々を産み成した始祖神 154

天照大御神 高天原の最高神にして皇室の祖神 155

月読尊 夜の世界を統べる三貴神の一神 156

素戔鳴尊 善と悪の二面性を持った神 157

天鈿女命 神楽舞・技芸の祖神 158

蛭児 幸福をもたらす神として信仰を集めた来訪神 159

大気津比売神と保食神 食物をもたらした記紀神話の女神 160

大国主神 日本の国土をつくり、天孫に譲った多彩な神格を持つ大神 161

少彦名命 大国主神とともに国をつくった小さな神 162

武甕槌神 剣と雷を司り、大国主神に国譲りを承諾させた武神 163

瓊瓊杵尊 皇室の祖先神となった天孫降臨の主人公 164

猿田彦神	天孫を地上へと導いた異形の神	165
神日本磐余彦尊	最初の天皇・神武の誕生	166
彦火火出見尊	初代天皇の祖となった農業の守護神	167
大物主神	強力な呪力を持ち、大国主神と同一視される三輪山の神	168
豊都比売命	皇祖神・天照大御神の食事係	169
住吉三神	航海の守護神として崇敬を集める海神	170
日本武尊	荒ぶる神々を征討し、国土の平定に尽力した勇者	171
章末コラム◆『古事記』を読む⑥	神武天皇の即位	172

第六章 聖地を歩く

二十二社	朝廷から特別な崇敬を集めた靈験あらたかな神社	174
石上神宮	／日吉大社	176
賀茂神社	／宗像大社	177
八坂神社	／伏見稻荷大社	178
貴船神社	／北野天満宮	179
宇佐八幡宮	／石清水八幡宮	180

諏訪大社	／住吉大社	181
熱田神宮	／鹿島神宮	182
香取神宮	／松尾大社	183
橿原神宮	／厳島神社	184
出雲大社	／春日大社	185
伊勢神宮	／明治神宮	186
靖国神社	／大神神社	187
鶴岡八幡宮	／日光東照宮	188
氷川神社	／太宰府天満宮	189

参考文献 190

※神名の表記は原則『日本書紀』に準じています。ただし、本文中の『古事記』の記述、章末コラム「『古事記』を読む」に登場する神名は『古事記』に準じています。また、神名の読みは、読みやすさを考慮し、現代かなづかいにあらためています。